

展示室1 イギリス美術とモード

今回は、時代の流行という幅広い意味で「モード mode」をテーマに、18世紀から20世紀初頭のイギリス美術をご紹介します。イギリスでは、18世紀半ばから19世紀にかけて美術の分野でも黄金時代を迎え、ゲインズボロ、レイノルズらの出現によって肖像画が確立されました。肖像画に描かれた衣装は、流行やモデルの個性を表わす重要なモチーフでした。また、ホガースが描いた風刺画にも、18世紀中頃の世相が色濃く反映されています。

一方、イギリスの画家たちが新たな視点で自然をとらえることにより、イギリス国内で風景画が発展していきます。18世紀後半には「ピクチャレスク」の美学が広がり、風景に対する人々の意識を変えることになりました。

19世紀後半になると、ギリシャ・ローマなどの古典芸術や、東洋世界などに憧憬と関心を高め、創作の源泉とした画家たちが登場します。彼らは豊かな想像力を発揮する一方で、装飾性や審美性に特化した表現を追求しました。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
ウィリアム・ホガース	卵を割るコロンブス	1752	エッチング・紙
ウィリアム・ホガース	『当世風結婚』第2場	1745	エッチング、エングレーヴィング・紙
ウィリアム・ホガース	ビール街とジン小路 ビール街	1750-51	エッチング、エングレーヴィング・紙
ウィリアム・ホガース	ビール街とジン小路 ジン小路	1750-51	エッチング、エングレーヴィング・紙
トマス・ローランドソン	ヘント付近、ローエン駅に着く馬車	1790年代	水彩・紙
ウィリアム・ホガース	サミュエル・マーティンの肖像	1758-60頃	油彩・キャンバス
トマス・ゲインズボロ	オース夫人の肖像	1767	油彩・キャンバス
サー・ジョシュア・レイノルズ	エグリントン伯爵夫人、ジェーンの肖像	1777	油彩・キャンバス
リチャード・ウィルソン	キケロの別荘		油彩・キャンバス
アレクサンダー・カズンズ	川岸に神殿のある風景		水彩・紙
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	ティンタージェル城、コーンウォール	1818	エッチング、ライン・エング レーヴィング・紙
トマス・ガーティン	エクセター大聖堂	1798頃	水彩・紙
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	カンバーランド州のコールダー・ブリッジ	1810	油彩・キャンバス
ジョン・コンスタブル	デダムの谷	1802	油彩・紙、キャンバス
トマス・マイルズ・リチャードソン・ジュニア	コンウェイ城の日没	1855	水彩・紙
サー・フランク・ブランギン	花園	1899頃	油彩・板
アルバート・ジョゼフ・ムーア	黄色いマーガレット	1881	油彩・キャンバス
ウォルター・シッカート	カフェの中	1914頃	油彩・キャンバス

展示室 2.3 “雰囲気” を展示する

私たちの生活は、さまざまな雰囲気に包まれています。場の「空気」を読み、色の「ムード」を感じ、ときに眼に見えないものの「けはい」に怯えることもあるでしょう。このように、人と人、人との間、場に漂う不可視の「雰囲気」は、とても身近なものです。眼に見える「作品」がある美術においても、おのずから、眼に見えない雰囲気を表そうと試みられてきたのではないのでしょうか。

この章では、作品の中に表された雰囲気と、作品とそれを見る人との間で生まれる雰囲気、そして作品が置かれる場が人を包み込む雰囲気の展示を試みています。雰囲気という切り口を意識したとき、作品や美術館がどのような新しい相貌を見せることになるのか、神戸雰囲気学研究所 (KOIAS) とのコラボレーションを通じて探っていきます。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
湯田 玉水	夏山驟雨・晩秋暮鴉		墨、岩絵具・絹/二曲一双屏風	
梶田 半古	蝶	1907-12頃 (明治40年代)	岩絵具・絹/二曲一隻屏風	
斎藤 清	ノートルダム、パリ	1974(昭和49)	木版・紙	
佐藤 静司	二月堂お水取り		木版・紙	佐藤静司氏寄贈
サミュエル・パーマー	ひばり	1850	エッチング・紙	ローダーコレクション
サー・エドワード・コリー・バーン=ジョーンズ	『フラワー・ブック』	1905	リトグラフ・紙/ ポートフォリオ (38点組)	
	春の鍵 ばらまかれたハコベ			
ジョン・コンスタブル原画、 デイヴィッド・ルーカス版刻	『イングランドの風景』 春	1830-32	メゾチント・紙/ポートフォリオ	ローダーコレクション
サー・エドワード・コリー・バーン=ジョーンズ	フローラ	1868-84	油彩・キャンバス	
吉田 博	積み藁のある風景		水彩・紙	
中川 八郎	おぼる月夜		水彩・紙	
山本 昇雲	『いますぐた』 花かげ	1906(明治39)	木版・紙	亀井よし子氏寄贈
クリスト	日本とアメリカ合衆国による共同計画 アンブレラ (黄)	1987	鉛筆、木炭、クレヨン、パステル、 地図、エナメル塗料・紙	
クリスト	日本とアメリカ合衆国による共同計画 アンブレラ (青)	1987	鉛筆、木炭、クレヨン、パステル、 地図、エナメル塗料・紙	
ヴィクター・パスモア	ワインレッド (version 1)	1964	レリーフペインティング、パネル・紙	
岸田 劉生	『天地創造』 怒れるアダム	1914(大正3)	エッチング・紙	
ウィリアム・ブレイク	眠るダンカン王に近づくマクベス夫人		水彩、インク・紙	
ウィリアム・ブレイク	ダンテの『神曲』のための連作 好色な人々の圏谷：パオロとフランチェスカ	1826-27	ラインエングレーヴィング・紙	ローダーコレクション
リュシアン・ピサロ	C. ベロー『眠れる美女と赤ずきん』	1899	木口木版・紙/本	ローダーコレクション
ジャック・カロ	『戦争の惨禍』	1633	エッチング・紙/本	
ジョン・フラクスマン原画、 トンマーゾ・ピロリ版刻	アイスキュロス『悲劇』より(1831年版) 犠牲者を追いかける復讐の女神エリニユ スたち(『慈しみの女神たち』より) 嘆くトロイアの女たちの列 (『供養する女たち』より)	1831	ラインエングレーヴィング・紙 /ポートフォリオ	ローダーコレクション
西野 康造	ホルン	1987(昭和62)	ステンレス	
デーム・バーバラ・ヘップワース	オルフェウス (マケット 2)	1956	真鍮、糸	
ジョン・ラスキン原画、 トーマス・ショットター・ボーイズ、 トーマス・ラプトン版刻	『ヴェネツィアの建築』 アラブ風の窓 サンタ・マリア・マーテル・ドミニエー広場	1887	エッチング、メゾチント・紙	
栗原 忠二	ヴェニス風景	1921(大正10)	油彩・板	
スタンリー・ウィリアム・ヘイター	花火	1958	エッチング・紙	
吉村 正郎	ローリングクロスシリーズーベゼル	1993(平成5)	布	吉村正郎氏寄贈
西野 康造	翼の森	2019(令和元)	ステンレス、鉄	
アントニー・ゴームリー	量子雲 XXIII	2000	ステンレス・スチール棒	
アントニー・ゴームリー	領域 XIII	2000	ステンレス・スチール棒	
ジョン・コンスタブル原画、 デイヴィッド・ルーカス版刻	『イングランドの風景』 ウェイマス湾	1830	メゾチント・紙/ポートフォリオ	ローダーコレクション
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	海と空の習作	1825頃	メゾチント・紙	ローダーコレクション
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	サン・ゴタル峠の下り道	1848	水彩・紙	

展示室4-① ブランギンの版画

フランク・ブランギン（1867 - 1956）は、油彩・水彩・版画のみならず、装飾デザインまで手掛け、国際的に活躍したイギリス人画家です。幼少期はベルギーで育ち、その思い出を基に、『ブリュージュの詩画集』など叙情的な風景を版画に表しました。また、港湾労働者の活気あふれる姿に魅せられ、海や船、そして造船所などを題材とする絵画を多数制作しました。1916年、川崎造船所の初代社長でコレクターである松方幸次郎と出会うと意気投合し、日本に西洋美術を紹介したいという松方の夢を共有、「松方コレクション」の形成に大いに貢献しました。

ここでは、ブランギンが原画を描き、木版画家の漆原木虫が彫りと摺りを担当した詩画集や、ブランギン自らが監修した版画集を展示し、ブランギンの幅広い芸術の一端をご覧ください。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
サー・フランク・ブランギン	詩画集『ブリュージュ』	1919	木版・紙／ポートフォリオ	株式会社リーチアート寄贈
サー・フランク・ブランギン	版画集『ブランギン・ポートフォリオ』	1927	リトグラフ、エッチング、写真製版、 手彩色・紙／ポートフォリオ	株式会社 リーチアート寄贈
サー・フランク・ブランギン	版画集『20の素描・版画集』	1921	エッチング、写真製版・紙 ／ポートフォリオ	株式会社リーチアート寄贈
サー・フランク・ブランギン	版画集『WORK By FRANK BRANGWYN』	1914	ファクシミリ版・紙／ポートフォリオ	

展示室4-② 工芸にみる造形美

ガラス、カトラリー、花器などは、その造形美をとおして、芸術家の精神性や時代文化を反映します。たとえば、郡山生まれの佐藤潤四郎（1907 - 1988）の作品には、自然への深い敬意と慈しみが込められており、温もりに満ちた造形を特徴にしています。

一方、工業都市グラスゴアの生まれでモダンデザインの先駆者であるクリストファー・ドレッサー（1834 - 1904）は、機能性と日本の植物文様などに触発された装飾性を融合した造形美を生みだしています。

工芸品はその美しさをとおして、人々の生活に潤いと精神的な喜びをもたらします。この展示が日常生活における工芸の意義を見直すきっかけとなれば幸いです。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
佐藤 潤四郎	龍文花器		ガラス／宙吹・グラヴェール	福永香氏寄贈
佐藤 潤四郎	花器・アダムとイヴ		ガラス／宙吹・サンドブラスト	
佐藤 潤四郎	花器・何をしようか	1986(昭和61)	ガラス／宙吹	
佐藤 潤四郎	花器（グリーン）		ガラス／宙吹	
佐藤 潤四郎	ポウル（グリーン）		ガラス／宙吹	
佐藤 潤四郎	タンブラー		ガラス／型吹ほか	佐藤久枝氏寄贈
佐藤 潤四郎	ブルー花器		ガラス／宙吹	
佐藤 潤四郎	灰皿		ガラス／型押し	
佐藤 潤四郎	花器（カレット入り）		ガラス／宙吹・カレット封入	
佐藤 潤四郎	花器（カットグラス）	1986(昭和61)	ガラス／型吹・エッチング、カット	
各務 鑛三	クリスタル花瓶《鱗影》	1970(昭和45)頃	ガラス／宙吹・気泡封入、グラヴェール	田淵十一氏寄贈
クリストファー・ドレッサー	色絵金彩竹梅文水差		磁器	
クリストファー・ドレッサー	橋型二重注口人面壺	1879-82頃	陶器	
クリストファー・ドレッサー	蓋つきスープ入れ		金属、電気メッキ、黒檀把手	
クリストファー・ドレッサー	トースト・ラック（青海波）	1879-82頃	金属、電気メッキ	
クリストファー・ドレッサー	トースト・ラック	1881	金属、電気メッキ	
クリストファー・ドレッサー	塩入れとスプーン	1884	銀	
クリストファー・ドレッサー	銀製ティーマット	1885	銀、象牙、金メッキ	
クリストファー・ドレッサー	三角型薬味入れセット		ガラス、金属、電気メッキ	
クリストファー・ドレッサー	ナイフとフォークのセット		金属、電気メッキ	
佐藤 潤四郎	鳥文大皿		陶器	田淵十一氏寄贈
バーナード・リーチ	鉄絵碗		陶器	
バーナード・リーチ	白磁魚絵皿	1961	磁器	
浜田 庄司	黒釉流描角皿		陶器	麻山富義氏寄贈
仁阿弥 道八	刷毛目鉢	19世紀(江戸時代)	陶器	渡辺宗侑氏寄贈
田村 耕一	野草図楕円鉢	1963(昭和38)頃	陶器	麻山富義氏寄贈
佐藤 潤四郎	スタンドグラス・窯		ガラス、鉄	佐藤久枝氏寄贈

ロビー展示 彫刻・他

作者名	作品名	制作年	技法・材質
●1階			
笠置 季男	躍進	1958 (昭和 33)	セメント
●2階展示ロビー			
柳原 義達	女の首	1958 (昭和 33)	ブロンズ
北村 四海	井冰鹿の娘	1917 (大正 6)	大理石
細川 宗英	道元	1988 (昭和 63)	ブロンズ
堀内 正和	顔	1955 (昭和 30)	鉄、セメント
三坂 耿一郎	女童 (めわらべ)	1974 (昭和 49)	ブロンズ
●前庭			
バリー・フラナガン	野兎と鐘	1988	ブロンズ